

4 生涯効用の比較

・ 若年期期首資産 $a_1 = 0$ とし, 各期の消費を計算する.

1. $c_1^i = y_1^i - a_1^i$

2. $c_2^{i,j} = \begin{cases} y_2^i + (1+r)a_1^i - a_2^i & (\text{年金なし}) \\ 0.7y_2^i + (1+r)a_1^i - a_2^i & (\text{あり}) \end{cases}$

3. $c_3^j = \begin{cases} a_3^j & (\text{なし}) \\ a_3^j + b & (\text{あり}) \end{cases}$

効用を i ごとに計算し, $1/3$ で加重平均をとると,

なし $U \approx -3.50$

あり $U \approx -3.35$

結論

- ・ 年金制度で平均効用改善 \rightarrow 社会的厚生増加
 - ・ 主因は高所得者 \rightarrow 低所得者への再分配効果と消費平準化の効果
- \rightarrow 日本は年金制度は維持すべき.